

コラム 緑化植物 ど・こ・ま・で・き・わ・め・る

ハイヌガヤ (*Cephalotaxus harringtonia* (Knight) K.Koch var. *nana* (Nakai) Rehder)

安藤正規 (岐阜大学応用生物科学部) m_ando@gifu-u.ac.jp



ハイヌガヤは北海道西南部, 本州の日本海側および四国の一部に分布するイヌガヤ科イヌガヤ属の常緑低木であり, イヌガヤ (*Cephalotaxus harringtonia* (Knight) K.Koch) が多雪地に適応した生態変種であると考えられている^{2,5)}。樹高は1~2mとなるが, その名のとおり幹下部が地面を這う様に生育する^{3,5)}。積雪期には斜上した枝に雪が積もって地上部全体が地表面近くに倒れ込むため, この時期は主に雪の下に埋もれて過ごす。このような特性のためか, 幹は固いうえに粘りがあり, 直径2cm前後の細い幹であっても手で折るのは容易でない。雌雄異株であり, 種子は10月頃に外果皮が紅色~淡紅紫色に熟し, やに臭いが甘みがあって食用となる^{2,5)}。花期に関する情報は, 主要な植物図鑑^{2,3,5)}を参照しても基本種であるイヌガヤの記述(おおよそ3~5月)しかないが, 主に積雪地に生育することや筆者らの直接観察の状況を踏まえると, 図鑑にあるイヌガヤより遅い時期, おおよそ5~6月に花期を迎えると考えられる。

最近, この地味な植物が俄かに注目されている。本種は葉にアルカロイドを含んでおり⁴⁾, シカに採食されにくい種であると考えられてきた⁷⁾。しかし近年, 国内各地で本種がシカの採食により減少するという報告が相次いでいる。洞爺湖中島(北海道)では, 餌不足によるシカ個体群の大量死が発生して以降, 元々は不嗜好植物であったハイヌガヤがよく食べられるようになった⁶⁾ことが報告されている。シカの採食により森林生態系全体が大きな影響をうけている京都大学芦生研究林(京都府)では, ハイヌガヤ群落が近年の20年間で劇的に減少した¹⁾ことが明らかとなった。筆者らが調査を進めてきた岐阜大学位山演習林(岐阜県)においてもハイヌガヤ群落の衰退が顕著であり(写真), 2009年~2012年にかけて調査対象となっていたハイヌガヤの半数以上が

枯死した。いずれのケースもシカの採食圧の高い場所で確認されており, 今後シカの分布の拡大に伴って, この問題も広がっていくことが懸念される。

現在の岐阜大学位山演習林では, 健全なハイヌガヤ群落を見ることは出来なくなってしまった。かつてハイヌガヤ群落のあった場所でよく似た植物が健全に生育しているのを目にすることがあるが, それはイチイ科カヤ属の常緑低木であるチャボガヤ (*Torreya nucifera* (L.) Sieb. et Zucc. var. *radicans* Nakai) である。遠目には両種はよく似ているが, チャボガヤの方が僅かに光沢が強く, また葉の裏側の色・模様も異なる。両種を識別する最も簡単な方法は, 葉の付いた枝先を握ってみることである。ハイヌガヤは握っても何の支障もないが, チャボガヤは固い葉の尖った先端が手に刺さりとても痛い。サイズや形態が良く似た両種であるが, 餌としての食べ易さには大きな違いがあることが容易に想像できる。この違いがシカの餌選択に寄与した結果, 一方は激減し, もう一方は競争相手の居なくなった場所で依然として生育する, といった状況をもたらしているのだろう。

引用文献

- 1) 福田淳子・高柳敦(2008) 京都府の多雪地におけるニホンジカ *Cervus nippon* Temminck によるハイヌガヤ *Cephalotaxus harringtonia* var. *nana* の採食にみられる積雪の影響, 森林研究, 77: 5-11.
- 2) 北村四郎・村田源(1979) 原色日本植物図鑑 木本編(II), 保育社, 545pp.
- 3) 牧野富太郎(1989) 牧野新日本植物図鑑 改訂増補, 北隆館, 1453pp.
- 4) Morita, H., Arisaka, M., Yoshida, N. and Kobayashi, J. I. (2000) Cephalezomines A-F, Potent Cytotoxic Alkaloids from *Cephalotaxus harringtonia* var. *nana*, Tetrahedron, 56(19): 2929-2934.
- 5) 佐竹義輔・原寛・亘理俊次・富成忠夫編(1989) 日本の野生植物 木本 I, 平凡社, 321pp.
- 6) Takahashi, H. and Kaji, K. (2001) Fallen leaves and unpalatable plants as alternative foods for sika deer under food limitation, Ecological Research, 16(2): 257-262.
- 7) Zhang, D., Dirr, M. A., and Price, R. A. (2000) Discrimination and genetic diversity of *Cephalotaxus* accessions using AFLP markers, Journal of the American Society for Horticultural Science, 125(4): 404-412.



写真 岐阜大学位山演習林のハイヌガヤ群落(同一地点)
左: 2009年11月撮影 右: 2014年9月撮影